

研究部より

令和2年8月7日(金) No. 5
研究部(牧野, 早坂)

宮城教育大学附属小学校

学びを止めない

カリキュラム・マネジメント
オンライン研修会

第2部「奈須先生に尋ねる」の40分間

8月4日(火)に実施した「学びを止めない カリキュラム・マネジメント オンライン研修会」の終了後、奈須先生のお時間をいただき、お聞きしたかった内容について尋ねました。要点をまとめると、以下の通りです。



1 学校教育目標と研究

目指す未来社会と具体的な授業をつなぐものとして、学校教育目標の重要性に目を向けて本校では研究している。

【奈須先生】

学校教育目標が日々の授業で思い浮かべやすいものになっているか。そうでないと学校教育目標は無駄。学校教育目標は文学的なものでも構わない。(本校の「たくましく、しかも、しなやかな子供」も評価) 学校教育目標に照らして、とにかく子供の姿で語ること。

学校教育目標を授業実践や子供の姿に下ろせないと意味がない。

「あの子、たくましくてしなやかだったなあ」と、教師が直感的に分かるようになることが大切。

その後、「なぜ、そう感じたか」を分析すればよい。

「どこでたくましさが出ていたか、しなやかさが出ていたか」の議論を重ねたらよい。

2 教員集団の授業観

教員集団が変わっていく中で、本校としての共同研究の在り方を模索している。また、「良い授業」の捉えも様々である。

【奈須先生】

研究=良い実践を創ること 研究を進める中で、内省を繰り返しながらその意味を模索してほしい
それがよい集団の取組となる

授業実践を通して子供の姿で語る そして教師が内省する

やはり具体的な子供の場面を提示しながら、検討会で大いに議論する

学校としての共同研究 統一しなくてよい 変わっていい

“秘伝のたれ”のようなもの ベースは変わらないが足りる材料は変わる

子供の育ちに統一感があればよい 「やはり附属小の子だね」と納得できることを目指す

3 家庭との連携

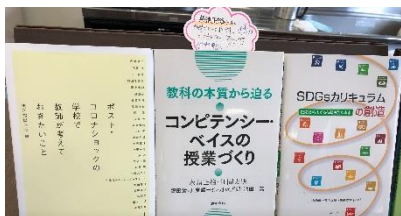
未来社会や授業づくりに関する価値観について、家庭との共有が必要だと考えている。

【奈須先生】

授業参観でこそ、学び合いや生き生きと学ぶ姿を見せる 頭に汗かく子供 優しさが見える姿
知的に説明がつく授業を通して“受験にも強い”にしていけば親も納得する

そして教材的に一段上を目指す 大切なのは「質」

教員=プロの料理人 よい素材をおいしい料理に仕立てて保護者に見せれば おいしさを共有できる
(公開研究会等では 奇をてらった素材でオリジナルの味付けで勝負 参観者もまたプロの料理人)



「どのように子供と向き合うか」「どのように共同研究に向かうか」そして「本校教員としてどのように在ればよいか」を考えると、研修会で講演いただいた内容とともにじっくりと味わいたい言葉が続きます。奈須先生の書籍もオープンスペースで紹介していますので、味わってみてください。

文責：研究主任(三浦)